

今月の重点活動

■水稲 第7回郡上おいしい米コンテスト開催

11月14日、「第7回郡上おいしい米コンテスト」が郡上総合庁舎にて開催された。

今回は、昨年度の表彰式と競売会に加え、技術研修会が行われた。

表彰式では、コンテストに応募があった101点の中から、食味値等が高い上位者が選考され、最優秀賞1名、優秀賞2名、奨励賞9名の表彰がされた。また、競売会では、市内6事業者が参加してセリが行われ、最優秀賞を受賞した米が1俵7万円と最高値での落札となった。

技術研修会では、農業普及課がドローンやリモコン式草刈機などのスマート農業を情報提供、JAめぐみのが新品種「ほしじるし」や新肥料「米の極味」の実証ほの結果を報告した。

農業普及課は、運営メンバーとして企画から食味分析や広報など全面的に支援しており、今後もコンテストを通じて郡上おいしい米づくりを推進していく。



【第7回郡上おいしい米コンテスト競売会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農 なし生産者が農業大学の学生を受け入れ

岐阜県農業大学校では、1年生が1週間、2年生が1カ月間にわたる農家での作業や生活を学ぶ派遣学習を実施している。

今年は、新型コロナウイルスの影響で当初予定していた9月から延期されたが、農業大学校生1名が10月31日から1週間、郡上市大和町のなし生産者のもとで実習を行った。

作業は剪定枝の殺菌剤塗布や後片付けを中心に、晩生品種の出荷作業も体験することができた。

今回初めて学生の受け入れた生産者からは、思った以上の働きで受け入れて良かったとの感想をいただいた。

農業普及課では、今後も農業大学校と連携して派遣学習の受け入れなど就農に向けた機会づくりを行う。



【農家から指示を仰ぐ学生】

■女性農業経営アドバイザー 第7回農業女子会を開催

11月15日、郡上市内の女性農業者等を対象とした「第7回 農業女子会」が開催された。

この会は、女性農業者の交流の場として郡上地区女性農業経営アドバイザーが毎年企画、運営しており、今年度は市内の女性農業者を講師に招いて、地元で生産された花材を使ったハーバリウムづくりを体験した。

作業中は作品を見比べながら会話を交えるなど、参加者同士が活発に交流している様子うかがえた。また、講師から女性として農業経営との関わりについての体験談もあり、女性農業者の経営参画について考える良い機会にもなった。

農業普及課では、様々な機会を通じて女性農業者の交流を促すなど、女性農業経営アドバイザーの活動を支援していく。



【ハーバリウムづくりを体験】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏だいこん ひるがの高原だいこん反省会を開催

11月2日、ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、夏だいこん出荷を終了したことから、今年を振り返る反省会を開催した。

反省会では、JAが今年の出荷経過を説明した後、農業普及課から次年度に向けて使用頻度の高い農薬の特性の違いやその特性を生かした防除方法、経営上の問題分析と具体的な対策の検討手法などの説明を行った。

加えて、スマート農業機器の一つである、畑地センサーを用いて土壌水分やEC(肥料濃度)の経時的変化を測定した新たな取り組みについても報告した。

農業普及課では、今後もスマート機器等の新たな取り組みや問題解決に向けたアドバイスなど、ひるがの高原だいこんの生産振興を支援していく。



【今年を振り返る反省会】

■夏秋トマト 収穫終了に伴い「生育結果」を測定

新規就農研修施設である郡上トマトの学校では、11月8日に最終出荷となり、今年度の締めくくりとしてハウスの片づけ作業に入った。

併せて、研修の一環として次年度の栽培に生かすため、収穫が終了したトマト株を調査し、着果跡の数や茎の長さ、下部から上部にかけての茎の太さの変化など「生育結果」を測定した。

「生育結果」の測定により、時期毎の樹体の生育状況を推測することができ、その時々々の収量や気象データを加えて、トマトの栽培管理が適切であったかを判断する材料となる。

農業普及課では、測定データを分析して、今年度の栽培を振り返るとともに、研修生が次年度の管理に生かせるよう今後の座学指導を行う。



【今年の生育結果を調査】